

平成24年2月15日

村上市長 大滝 平正 様

村上地区地域審議会  
会長 佐藤 久也

(仮) 定住の里づくりアクションプラン (素案) について (答申)

平成23年11月18日付け村政第367号で諮問のあったこのことについて、別紙のとおり答申します。

# 答 申 書

村上地区地域審議会

- 1 第1次村上市総合計画の重点戦略である「定住の里づくり」の柱となる5つの戦略プロジェクトの中で、後期実施計画期間中（平成25～28年度）に特に力を入れて取り組むべき施策の方向性について

村上地区地域審議会では、人口減少に歯止めをかけることを前面に押し出した定住の里づくり施策を展開すべきであるという考え方のもと、慎重に審議しました。その結果、素案に示された方向性については、おおむね異論はありませんが、次の事項に十分配慮されるよう要望します。

(1) 産業元気プロジェクトについて

農林漁業の6次産業化や農商工が連携しやすい枠組みについて、様々な手法により研究を進めていく必要があります。

また、地元産物の地元消費はもとより、市外の方や観光客にも広くPRし、産業の活性化を図っていく必要があります。

(2) 交流・体験プロジェクトについて

UJIターンを意識しながら、空き家バンク制度を充実させるとともに、保育料や住宅建築に対する助成等、移住定住者への支援策を積極的に取り入れる必要があります。

(3) 健やか・子育て応援プロジェクトについて

「子育て支援」や「高齢者への支援」の充実は、“e<sup>い</sup>まち”には欠かせないものであり、特に力を入れて取り組む必要があります。

若い人たちが住みやすく、子育てしやすいまちにすることが定住の里づくりには欠かせないものであり、休日保育等の導入や医療費支援等の施策に力を入れる必要があります。

(4) 人づくりプロジェクトについて

地元が必要とする分野への特別な支援等を含めた奨学金制度について、研究を進める必要があります。

また、地元で育ち、地元就職した新卒者に対する支援策について研究するとともに、「郷育のまち・村上」を目指し、家庭・地域・学校が一体となった施

策を更に進めていく必要があります。

(5) 暮らし応援プロジェクトについて

企業誘致を積極的に進めるとともに、他市町村で働いていても村上市に住んでもらうという発想も必要です。通勤圏・生活圏が広がっていることを考慮し、市外で働く市民への生活支援策について研究する必要があります。

2 これまでに各地域審議会から提案された地域活性化に向けての意見に基づいた、各地区で特に力を入れて取り組むべき施策の方向性について

① 村上駅周辺の活性化

村上駅周辺については、村上総合病院の建設地が決まらなると、まちづくりが進まないことから、早急に方向性を示していただきたい。

② 中心市街地の活性化

中心市街地の活性化は、当地区の魅力の発信やにぎわいの創出に欠かせないものです。

美しい景観や歴史・風土を活かしたまちづくりの方向性を示していく必要があります。

当地区は市街地と農村とが混在しており、それぞれの特性を活かした活性化策が必要です。

第1次産業の活性化は、第2次、第3次産業の活性化のためにも欠かせないものであり、農商工連携や6次産業化を支援する等、農林水産業の振興にも力を入れていただきたい。